

# 変異株スクリーニングとゲノム解析体制の強化について

資料4-1

## 現在の対策方針

- 府内だけでなく全国的にもアルファ株にほぼ置き換わったことから、N501Yスクリーニングを中止  
今後、デルタ株等の発生状況を把握するため、L452Rスクリーニングを実施する。(参考:令和3年6月4日付け厚生労働省通知)

## L452Rスクリーニング

➡ N501Yスクリーニングを実施していた各機関で実施(1週間あたりの新規感染者数の40%の実施率を目標)

### 府が整備する体制

大阪健康安全基盤  
研究所<sup>※1</sup>等

5/19以降順次

阪大微生物病  
研究会

5/26開始

医療機関

5月下旬以降順次

大阪府立大学  
京都大学

6月上旬開始

### 国が整備する体制

大手民間検査機関

6月上旬以降順次

実施件数

(6/8判明分まで)

384件

(陽性24件)

※1:4月下旬以降、インド等へ渡航歴がある者を対象に先行実施

陽性:速やかにゲノム解析を実施  
陰性:一定数を集約してゲノム解析を実施

## ゲノム解析

➡ 新たに地方衛生研究所、医療機関、大学で全長ゲノム解析を実施(ウイルス量が多く解析に適した検体を対象)

大阪健康安全基盤  
研究所

6月中に開始

医療機関

6月上旬開始

京都大学  
大阪大学

6月上旬開始



国立感染症  
研究所

## 今後の新規VOCに対する方針

- ゲノム解析体制によりデルタ株等以外の新規変異株を監視
- 今後、新たに懸念される変異株(VOC)のスクリーニングが必要となった際は、現在整備しているスクリーニング体制を活かし、速やかに新規変異株にシフト出来る体制を維持(各機関で新規変異株の体制が整備され次第)